

● 出題の基本方針

基本的な語彙力、基礎的な英文法の知識、平易な会話文や長文の読解力が身についているかどうかを確認する問題を出題しました。

● 出題内容とねらい、採点講評

【1日目】

第1問は、英文法を問う問題で、英文法の基礎的な力がどのくらい身についているかを見ます。全体の正答率は65.0%で、予想通りの結果となりました。その中で一番正答率が低かったのは⑥でした。「猫がどこへ行っているのかを知るわけではないでしょう」という意味です。反語的な表現で、④should が正答です。次に②の正答率もやや低かったです。「兄が東京に出張しているので、私は彼の犬の面倒を見なければなりません」ということで、①has gone が正答です。「東京に行ったままである」という結果を表す現在完了形です。以上のような基礎文法について十分注意する必要があります。

第2問は、会話の中で使われる慣用表現の知識を問う問題です。全体の正答率は48.6%で、やや難しかったと言えます。特に正答率が低かったのが⑫でした。Aが「モバイルバッテリーを借りられる？」と聞き、Bが「もちろん、いいよ」「はい、どうぞ」と答えています。「はい、どうぞ」を意味する④“Here you go”を知らない受験生が多かったようです。

第3問は、英文法の知識や語彙力をベースに、長文を読む能力を問う問題です。全体の正答率は60.0%で、予想通りの結果となりました。正答率が低かったのは⑫でした。他の人はもっと積極的にキャリアを検討していると読み取れば、正答の①involved を導けたはずですが、⑫の正答率も低かったです。夜空の星を観察することは、人間が昔から行っていたと読み取れば、②done が正答とわかるはずですが。

第4問は、長文読解能力を問う問題です。全体の正答率は62.5%でやや易しかったと言えます。外国人が日本に対する印象について語った文章で、正答率が低かった問題は、⑬でした。③の「筆者は、六本木は日本を象徴した場所ではないと考えているため、通常、海外からの訪問者を六本木には連れて行かない」が正答です。

【2日目】

第1問は、英文法を問う問題で、英文法の基礎的な

力がどのくらい身についているかを見ます。全体の正答率は63.0%で、予想通りの結果となりました。その中で一番正答率が低かったのは⑧でした。「彼女はパーティーの準備で忙しい」という意味です。be busy～ingで「～で（～していて）忙しい」の意味で、①preparing が正答です。そして、①は複数形を問う問題です。「彼は英語を勉強したとき、たくさんの困難があった」ということで、④difficulties が正答です。

第2問は、会話の中で使われる慣用表現の知識を問う問題です。全体の正答率は64.0%で、概ね良好な結果でした。正答率がやや低かったのは⑩でした。Aが「パーティーをするけど、来る？」と聞き、Bが「ごめん、パーティーには行けないよ」「今、仕事で忙しい」「ごめんなさい」と答えています。「ごめんなさい」を意味する④“I feel bad about it”を知らない受験生が多かったようです。

第3問は、英文法の知識や語彙力をベースに、長文を読む能力を問う問題です。全体の正答率は55.0%で、やや難しかったと言えます。正答率が低かったのは⑫でした。「“threatened” species（絶滅危惧種）は、防止策を講じないと将来的には危機に瀕する可能性が高い種を指す」という意味なので、④measures が正解です。⑫の正答率も低かったです。「国際機関が現在絶滅の危険性が高い種を指すために“endangered”の用語を使用している」という意味なので、②danger が正答です。

第4問は、長文読解能力を問う問題です。全体の正答率は65.4%でやや易しかったと言えます。有名なテレビゲームを制作した人物のストーリーで、正答率が低かった問題は、⑫でした。③object「目的」が正答です。

● 学習上のアドバイス

英語問題を解く基礎となるのが、文法と単語です。文法・語彙の知識を身につけることは、文法問題、短文・長文読解の問題を解くための大前提です。そして、英語慣用表現は英会話ができるのに不可欠なものになります。文法・語彙、慣用表現を身につけるためには暗記するだけでなく、問題集を解くと、より効率的でしょう。焦らず根気よく勉強しましょう。

● 出題の基本方針

国語は、様々な分野の論説を素材として、文章間の論理的なつながり、各文章の正確な理解、文章全体の趣旨の把握を問うという基本方針で出題しました。

● 出題内容とねらい、採点講評

【1日目】

第1問は、松井孝典『宇宙人としての生き方—アストロバイオロジーへの招待』から出題しました。科学の進歩によってもたらされた「新たな見方や考え方」について論じた文章です。抽象的な記述内容から具体的なイメージを想起し、文章全体の論調をしっかりと理解する力が求められます。

平均正答率は約66%で、例年と比べて難易度はそれほど高くなかったと思われます。しかし空欄に入る語句を選ぶ設問の中には、正答率が著しく低いものもありました。問8の空欄（I）と（J）は内容的に互いに関連しますが、（J）の正答率が60%だったにもかかわらず、（I）は約23%しかありませんでした。哲学的な思考の本質が何かを理解できていれば、正しい解答が導き出せたはずですが、難解な文章を正しく理解するには、広い意味での教養も必要です。普段から様々な文章を読み、確かな実力を身につけましょう。

第2問は、田口理穂『なぜドイツではエネルギーシフトが進むのか』から出題しました。専門用語が多く含まれており、文章を読めば全ての解答がすぐに見つかるタイプの問題ではありません。文章全体や前後関係を把握して推察することも求めました。

平均正答率は約46%で、2日目を含めた長文読解全4問の中で一番低い値でした。特に問2と問8が難しかったようです。問2は、再生可能エネルギーの普及を目指しつつ、国民への負担をできるだけ小さくするため、政府のサポートに頼らない競争力を事業者に求めていることを文章全体から把握する必要があります。問8は、不適の選択肢を消去法で削除していくとともに、バイオマスへの補助を絞っている流れを読み取ってほしいところです。

第3問は、漢字の問題です。やや難度の高い漢字を素材に、同音異義語で紛らわしい漢字を判別できるかを問いました。日頃から硬質な文章に親しんでいるかを問うねらいがあります。

【2日目】

第1問は、坂野徹『縄文人と弥生人—「日本人の起源」論争』から出題しました。日本人の起源に関する論争を扱った文章で、大きくいうと「人種交代モデル」と「人種連続モデル」との対立構造で論理展開しています。この対立構造を理解できるかどうか、ポイントになります。

平均正答率は約50%で、「やや難」の設問でした。文意を問う設問（問5と問7）は、約50%の正答率でよくできていましたが、「人口に膾炙」の意味を問う問8の正答率は、約35%とよくなかったです。

第2問は、白井恭弘『ことばの力学—応用言語学への招待』から出題しました。言語学習の過程について、応用言語学の研究より論じた文章です。比較的読みやすい文章ではありますが、科学的考察をする文章に対し、論理展開や筆者の見解を正確に把握できるかを問いました。

平均正答率は約62%とまずまずでした。特に問10と問11が難しかったようです。こうした説明文の問題では、筆者の主張がどこにあり、その理由は何か。論理展開を意識して読み進めるようにしておくとういでしょう。

第3問は漢字の問題です。基本的な漢字の理解を問いました。問3の正答率が低かったです。漢字の問題は継続的に勉強することで高得点が望めますので、日頃から新聞を読むなどしてください。

● 学習上のアドバイス

国語は時として効率の悪い学習が必要となります。文章題については、読書量を増やすことに加えて、苦手だったり好みでない分野にも避けることなく挑戦してください。その際には難解な文章を読み飛ばすことなく考え抜くことも大切です。これらは効率が悪く思えても、知識を増やし思考力を磨く効果があります。多様で多くの文章に触れることは、受験勉強の枠を超えて皆さんの人生を豊かなものにしましょう。漢字の問題については、わからない漢字をそのままにせず、きちんと調べることを心がけましょう。試験では実際に漢字を書くわけではありませんが、面倒でも書く練習を続けることが得点につながります。

● 出題の基本方針

現代社会は、教科書の内容を問うだけにとどまらず、時事問題に対する理解や、データ・資料を読み解く力を問う方針で出題しています。

● 出題内容とねらい、採点講評

【1日目】

全体の設問の意図として、教科書の知識を問う問題と、その知識をもとに考える問題をおりまぜて出題しました。前者のタイプの問題は正答率が高い傾向があった一方で、後者の考える必要があるタイプの問題の正答率は低く、大きな差が出ていました。全体の正答率は50%を下回りました。

第1問は、経済体制ならびに経済政策について幅広く問う設問でした。教科書をしっかり読んでいれば容易に解答できる問題と、教科書の知識をもとに考察が必要な問題をおりまぜていました。60%台の正答率を想定していましたが、40%台後半という低めの結果となりました。特に、為替レートに関する問8の正答率は20%を下回る結果となってしまいました。この問題にかぎらず、経済の問題は単純に用語を暗記するだけではなく、経済はなぜこのような動きをするのかというメカニズムを理解することが重要です。

第2問は、思想・哲学に関する出題でした。現代社会の教科書の範囲内での出題でしたが、本学の入試ではほとんど出題されることがない分野であったためか、正答率は低くとどまりました。設問ごとの正答率も総じて低かったです。宗教や思想の問題は、現在発生している紛争の背景となっていることもあり、現代社会においても理解が必要なテーマとなっています。

第3問は、環境に関する時事問題でした。単純な知識問題が多かったため、正答率は約70%と高めでした。各問の正答率も総じて高かったです。このような問題での点数の取りこぼしが合否を分けることもあるので、基本をしっかり押さえておく必要があります。

【2日目】

2日目も1日目と同様に、教科書の知識をもとに考える必要のある問題も出題しました。全体の正答率は、約51%でした。

第1問は、国際政治経済について問う時事問題でした。正答率は約48%でした。問6の紛争に関する問題では、イランとイラクを取り違えたと思われる解答が

多く見られました。紛争の当事者をしっかり把握しておく必要があります。一方、問5のGDPに関する問題は計算が必要であったにもかかわらず、正答率が比較的高かったです。このような教科書の知識を応用する必要がある問題の正答率が高かったことは、出題者として感心しました。

第2問は、倫理の問題とデータを読み解く問題を組み合わせたものでした。全体の正答率は60%以上で、各問の正答率も総じて高かったです。大学での学びには分野を問わずデータを読み解く作業が必要になります。この調子でがんばってください。

第3問は、会話文形式で、政治を中心とした時事問題を問う問題でした。全体の正答率は50%をわずかに下回っていました。各問の正答率のばらつきは大きく、最も高かった問5は90%を超える正答率となった一方で、最も低かった憲法改正に関する問4は約14%しかありませんでした。憲法は法体系の中では最も重要な位置づけになっており、憲法に違反するような法律や行政は許されません。当然ながら我々の生活においても基本となるものですので、しっかりと理解をしておいてください。

● 学習上のアドバイス

全体的な傾向として、単語の穴埋めのような基礎知識に関する問題と、基礎知識をもとに応用力が求められる問題の正答率の差が大きかったです。

現代社会は、まずは教科書を熟読し、しっかり内容を把握することが重要です。さらにそのうえで、データの読み取りや現実社会で発生している問題と組み合わせ理解をするといった応用力が求められます。

2025年度より「現代社会」の出題はありませんが、刻々と変化する社会情勢にも目を向け、新聞記事やニュースなどを通じて時事問題に関心をもつことは大切です。事の本質を見極めるよう日々心がけてください。

* 2025年度入試より「現代社会」は出題されません。

● 出題の基本方針

「数学Ⅰ・Ⅱ・A」の範囲から出題しています。出題の主な目的は、用語を正しく理解しているかどうか、基礎的な計算ができるかどうか、公式を理解して応用できるかどうかなどを問うことです。したがって出題の基本方針は、難問や奇問を避け、基礎的な問題とその応用問題を中心に出题するということです。

● 出題内容とねらい、採点講評

【1日目】

第1問は基礎的な計算力を問う問題です。因数分解、絶対値のある不等式、必要条件・十分条件、対数、データの分析について出題しました。

第2問は2次関数のグラフについての理解力を問う問題です。頂点、直線と接する条件、 x 軸と異なる2点で交わる条件、 x 軸から切り取る線分の長さ、微分係数、接線に関する問題を出題しました。

第3問は数字の書かれた赤、青、黄、白の球が袋に入っていて、題意の事象が起こる確率を計算する問題です。

第1問全体の正答率は6割強でした。問1はほぼ10割で、よくできていました。問2は2割弱～5割でした。 $\sqrt{x^2}=|x|$ を確認しておきましょう。必要条件・十分条件の問3は4～7割でした。対数の問4は3～8割でした。真数の条件や底の変換公式はよくできていました。誘導形式で与えられたヒントを活用できなかった人が多かったようです。問5は共分散だけは3割強で、それ以外は7割以上でした。

第2問全体の正答率は6割弱でした。問1は7割～9割強、問2は6割で、よくできていました。問3が2割～6割弱でした。 x 軸から切り取る線分の長さを求める問題は頻出問題ですから、マスターしておきましょう。問4が2割～6割弱でした。グラフの接線を求める問題の正答率が低かったです。

第3問の正答率は4割強でした。問1と問2はどちらも8割弱でしたが、問3は4割強と低かったです。題意の事象が2つしかないことに気づけば、簡単です。問4は2割弱でした。易しい問題なのに正答率が低かった理由はわかりません。問5は1割弱でした。題意の事象は複雑ですから、余事象が起こる確率を計算してから題意の事象が起こる確率を計算すると、易しいです。

【2日目】

第1問は基礎的な計算力を問う問題です。因数分解、

絶対値のある不等式、集合、対数、データの分析について出題しました。

第2問は2次関数のグラフについての理解力を問う問題です。頂点、平行移動、グラフが x 軸と共有点をもつ条件、グラフが x 軸から切り取る線分の長さ、微分係数、接線に関する問題を出題しました。

第3問の問1は並べ方の数を計算する問題です。問2は数字の書かれた赤、青の球が箱に入っていて、題意の事象が起こる確率を計算する問題です。

第1問全体の正答率は7割弱でした。問1はほぼ10割、問2は7割前後で、よくできていました。問3の前半の2問はどちらも6割強と高かったのですが、後半の2問はどちらも2割強でかなり低かったです。易しい問題なのに正答率が低かった理由はわかりません。問4は6割前後でした。問5の平均値、中央値、分散を求める問題は9割でしたが、共分散が4割弱、相関係数が2割弱でした。共分散、相関係数の定義を復習しておきましょう。

第2問全体の正答率は6割でした。問1は9割超でした。問2の前半は5割弱、後半は2割弱でした。よく似た問題にもかかわらず、正答率が前半と後半で大きく異なった理由はわかりません。問3は8割弱でした。問4は5割強でした。2次関数のグラフが x 軸を切り取る問題はよく出題されますから、マスターしておきましょう。問5は、微分係数を計算する問題は7割でしたが、接線を求める問題は4割でした。

第3問全体の正答率は4割でした。問1(i)の女子全員が続いて並ぶ場合の数の正答率は6割強でしたが、(ii)のどの男子も隣り合わないように並ぶ場合の数の正答率は2～3割でした。並び方を数える問題はパターンが限られていますから、よく復習しておきましょう。問2(i)は4割強～6割弱でしたが、(ii)は1割～2割強でした。反復試行の問題を復習しておきましょう。

● 学習上のアドバイス

数学の問題は、基礎的な演算能力や公式の理解力を問う問題ばかりです。高校の教科書を繰り返し復習しましょう。その際、実際に解いてみて、解けなかった問題は何度でもトライし、完全にマスターしておきましょう。公式は暗記するだけでなく意味も理解することが大切です。グラフの問題はグラフを描いて考えましょう。確率の問題は題意の事象を書き出してみると、意外と簡単になることがあります。

● 出題の基本方針

英語の基礎力を総合的に測ることを英語の出題の基本方針としています。語彙、文法、会話、読解といった各側面について、どのくらい理解できているかを問う問題が出題されています。

● 出題内容とねらい、採点講評

出題内容

各方式の問題構成は次のようになっています。

- | | | |
|-----|-----|------------|
| A方式 | 第1問 | 英文整序問題 |
| | 第2問 | 文法・語彙・語法問題 |
| | 第3問 | 会話文問題 |
| | 第4問 | 中文空所補充問題 |
| | 第5問 | 長文読解問題 |
| B方式 | 第1問 | 英文整序問題 |
| | 第2問 | 文法・語彙・語法問題 |
| | 第3問 | 会話文問題 |
| | 第4問 | 中文空所補充問題 |
| | 第5問 | 中文読解問題 |
| | 第6問 | 長文読解問題 |
| D方式 | 第1問 | 英文整序問題 |
| | 第2問 | 文法・語彙・語法問題 |
| | 第3問 | 会話文問題 |
| | 第4問 | 中文空所補充問題 |
| | 第5問 | 中文読解問題 |
| | 第6問 | 長文読解問題 |

出題のねらい

「英文整序問題」および「文法・語彙・語法問題」では、語彙・イディオム・文法・語法の基本的な知識が問われます。

「会話文問題」では、登場人物たちがどのような状況でどのような話題について話し合っているかを理解したうえで自然な会話ができるかの能力が問われます。

「中文空所補充問題」は、語彙、文法・語法の面と、文章内容の理解の面から、英文の理解力を問います。文章の構造をつかめているか、文脈を理解できているか、語彙の意味をわかっているかを確認するために、空所に入れる最も適切な語（接続詞、動詞、名詞、副詞など）の選択が問われています。

「中文読解問題」、「長文読解問題」では、文章全体の主題や内容の把握、各段落の論理的なつながりへの理解を含む読解力について確認しています。欠文挿入、

語義説明、内容説明、テーマ選択、内容一致など、多様な形式の問題を通じて、文章に対する理解力を問います。

採点講評

第1問の「英文整序問題」は比較的正答率が高かったです。正答率の低かったものは、A方式2日目の⑤(27.8%)とA方式3日目の⑩(29.1%)でした。

第2問の「文法・語彙・語法問題」に関して、問題によっては正答率が伸びないものもありました。前置詞、イディオム、関係詞に関わる問題を重点的に復習することをお勧めします。正答率の低かったものは、A方式2日目の⑫(10.4%)、⑮(30.2%)、A方式3日目の⑯(12.4%)、B方式1日目の⑬(32.7%)、⑮(30.1%)、D方式の⑬(24.0%)、⑰(24.5%)、⑲(31.0%)、⑳(32.3%)でした。

第3問の「会話文問題」の正答率は概ね高かったです。

第4問の「中文空所補充問題」で正答率の低かったものは、A方式1日目の③⑩(24.6%)、③⑫(28.3%)、A方式2日目の③⑩(23.8%)、③⑮(30.4%)、A方式3日目の③⑫(20.0%)、③⑮(31.2%)、③⑯(30.3%)、③⑲(25.3%)、B方式1日目の②⑨(28.6%)、B方式2日目の③⑪(25.6%)、③⑬(28.1%)でした。

第5問・第6問の「読解問題」は全体的に期待する正答率に達していましたが、D方式第6問の正答率(38.5%)が他の方式に比べやや低い傾向にありました。長文の内容と登場人物(Dr. Joseph Bell, Arthur Conan Doyle, Sherlock Holmes)の関係性をきちんと理解できるかが問われています。

● 学習上のアドバイス

英語力の基礎となる文法の知識をしっかり習得することがまず大切です。文法に関する参考書を一冊手元に置き、不明な点があれば絶えず参照するようにしましょう。また、不定詞、分詞、動名詞、受動態、仮定法、関係詞などの項目を明確に理解できるように確認しましょう。

読解力を高めるには、語彙の蓄積も重要です。教材や自分の関心のある分野の英文をたくさん読むことをお勧めします。市販の単語帳などを使って単語の習得を目指すのもよいでしょう。

● 出題の基本方針

国語の出題の基本方針として次のような能力を期待し作問しています。

まず、ある程度の量の文章を読み通せることです。多くの問題の課題文は6ページ前後あります。時間内にこの量の文章を読み込み、考えて解く力が期待されます。次に、文章の意味を理解できることです。具体的には、文章中の各段落間の関係をしっかり捉えることで、文章全体の主旨を把握することが期待されます。たとえば、文章の中の指示語の内容を適切に理解できているか、適切な接続詞を選ぶことができるか、文意において適切な文章の順番を導けるか。こうした形式の問題は、本文の理解について問うたものです。加えて、ことわざや熟語などの日本語表現や漢字の知識をもっていることです。以上のような能力や知識を想定し、各問題は出題されています。

● 出題内容とねらい、採点講評

A方式1日目は第一問が中畑正志『アリストテレスの哲学』、第二問が磯野真穂『他者と生きる』からの出題でした。前者はアリストテレスの心の哲学、後者は現代社会における「自分らしさ」についての文章です。第一問において正答率が低かったものは問1(17.0%)、問8(20.0%)でした。第二問は全ての設問の正答率が50%を上回っていました。

A方式2日目は第一問が仁平典宏『ディープ・ブルーの神話』、第二問が源河亨『「美味しい」とは何か』からの出題でした。前者は現代社会とAI、後者は食の美学についての文章です。第一問において正答率が低かったものは問4(29.1%)、漢字問題問9の㊦(16.5%)でした。第二問は全ての設問の正答率が50%を上回っていました。

A方式3日目は第一問が内山節『子どもたちの時間』、第二問が鎌田浩毅『理科系の読書術』からの出題でした。前者は子どもの時間感覚、後者は科学などの思考法についての文章です。第一問において正答率が低かったものは問6と問8(ともに45.2%)でした。第二問において正答率が低かったものは問7(49.8%)と漢字問題問9の㊦(45.5%)でした。

B方式1日目は第一問が稲田豊史『映画を早送りで見ると』、第二問(古典)が『宇治拾遺物語』からの出題でした。前者はZ世代の意識や考え方、後者は平安時代の歌人である小野篁についての文章です。

第一問において正答率が低かったものは問9(13.8%)、第二問において正答率が低かったものは問4(10.9%)、問7(30.5%)、問8(42.6%)でした。

B方式2日目は第一問が三木那由他『会話を哲学する』、第二問(古典)が『伊勢物語』第四〇段からの出題でした。前者はコミュニケーションの哲学、後者は和歌と男女の恋愛についての文章です。第一問において正答率が低かったものは問1(27.2%)、問3(44.7%)、問8(42.6%)でした。また、問11の漢字問題は5つの問題の正答率の平均が47.8%でした。第二問において正答率が低かったものは問1(13.4%)、問9(25.6%)でした。

D方式は第一問が榎本博明『「上から目線」の構造』、第二問が竹信三恵子『しあわせに働ける社会へ』からの出題でした。前者は職場での上下関係とコミュニケーション、後者は仕事とスキルについての文章です。第一問・第二問ともに全ての設問の正答率が50%を上回っていました。

● 学習上のアドバイス

国語の試験は多様なジャンルから、ある程度の量の文章が出題されます。日頃から様々なジャンルの文章をできるだけ多く読むことが大切です。小手先のテクニックに頼るのではなく、読書の習慣を身につけることが重要です。

そのための学習として、まずは少し長めの文章を読んでみましょう。自分の関心のあるテーマの新書でかまわないので、できれば毎日一定の時間を決めて、集中して読むことに慣れるようにしてください。そのうえで段落や文章全体の内容を正確に読み取る能力を身につけるように心がけましょう。特に指示語の内容や、段落間の関係を示す接続詞に注目して、理解ができるまで繰り返し読むことで、その文章が何を主張しているのか、より明確に理解することができます。

慣れてきたら、今度は読む文章のジャンルを変えてみましょう。幅広いジャンルの文章を読むことで、熟語やことわざなどの慣用表現の知識も増えていきます。知識が身についていけば、さらに読むことが楽しくなるでしょう。漢字の問題は基本的に熟語についての知識を前提とするものなので、しっかり文章を読めるようになれば、自ずと解けるようになるはずです。読書を楽しめるようになれば、問題を解く能力も伸びてくるでしょう。

● 出題の基本方針

全方式・日程を通じて大問2題からなる出題です。そのうち、A方式・B方式は第1問が近世以前（江戸中期まで）、第2問が近代以後に分かれるのに対し、D方式のみ両問とも近代以後を出題範囲としています。

全方式・日程を通じて、古代から現代に至る全時代の様々な分野について網羅するように考慮しています。設問は語句選択、正誤問題、年代配列問題などで構成しています。全てマーク式の選択問題です。

問題作成にあたっては、高校の教科書に掲載されている内容からの出題を基本としています。教科書本文の記述に加え、説明を補完している写真や文献・史料、図表やグラフなども利用して、それぞれの出来事と時代背景との関わりとを問うことを旨としています。

問題の難易度に関して言えば、中には正答率の低いものも含まれますが、いわゆる難問・奇問の類は避け、高校での学習内容に即した出題を心がけています。

● 出題内容とねらい、採点講評

A方式1日目は、第1問(1)奈良時代の文化と社会（史料・画像問題含む）、(2)平安時代後期の政治と文化（画像問題含む）、(3)鎌倉時代の政治（史料問題含む）、(4)江戸時代の経済（画像問題含む）、(5)江戸時代後期の文化（画像・史料問題含む）、第2問(1)条約改正、(2)日露戦争（史料問題含む）、(3)日米開戦（図表問題含む）、(4)昭和時代の文化から出題しました。A方式2日目は、第1問(1)奈良時代の文化（特に仏教。画像問題含む）、(2)平安時代の仏教（画像問題含む）、(3)親鸞（史料問題含む）、(4)鎌倉時代の政治、(5)江戸時代前期の政治と島原の乱（画像問題含む）、第2問(1)明治時代前期の政治、(2)昭和時代初期の政治と外交、(3)戦後改革、(4)石油危機後の外交と経済（画像問題含む）から出題しました。A方式3日目は、第1問(1)飛鳥朝廷の政治と外交（史料問題含む）、(2)摂関政治の形成、(3)足利義満期の政治、(4)織豊政権期の政治と経済（画像問題含む）、(5)江戸時代後期の政治と経済（図表問題含む）、第2問(1)明治時代前期の経済政策、(2)大正～昭和時代初期の経済、(3)戦後改革と復興期の文化、(4)高度経済成長（画像問題含む）から出題しました。

B方式1日目は、第1問(1)3～6世紀の外交（図表・画像問題含む）、(2)古代の外交と貿易（史料問題含む）、(3)13～15世紀の外交（図表問題含む）、(4)豊臣

政権期・江戸時代初期の外交と貿易（図表問題含む）、(5)江戸時代後期の外交（図表問題含む）、第2問(1)幕末期の政治（史料・画像問題含む）、(2)殖産興業・文明開化（特に教育。画像問題含む）、(3)明治期の文化（特に演劇・文化。史料問題含む）、(4)吉野作造（史料問題）から出題しました。B方式2日目は、第1問(1)奈良時代の政治（特に藤原氏。史料問題含む）、(2)鎌倉時代の政治、(3)戦国時代から江戸時代初期の政治・経済・文化（画像問題含む）、第2問(1)幕末・明治時代の経済（特に交通・通信）、(2)大正時代の文化（史料問題）、(3)日中戦争・太平洋戦争下の経済、(4)高度経済成長期の経済・文化・政治から出題しました。

D方式は、第1問(1)明治時代の北海道、(2)明治時代後期の政治（特に国会と政党内閣。画像問題含む）、(3)関東大震災（画像問題含む）、第2問(1)明治時代の教育（史料・画像問題含む）、(2)明治後期～大正時代の文化（画像問題含む）、(3)戦後の政治（特に復興期と55年体制）から出題しました。

採点結果から見られることとして、語句選択問題は正答率が総じて高くなりました。時代ごとの主要な出来事や登場人物については、かなり正確に把握できていると考えられます。一方で、史料・画像・図表類の読み取りから史実の説明や時代背景を考える問題については、正答率が低い傾向があります。

● 学習上のアドバイス

まずは基本となる教科書の内容をしっかりと読み込んで、主要な出来事の成り立ちや概要を俯瞰して理解してください。その際、時代の流れに沿って一つ一つの出来事の前後関係・因果関係を一連のストーリーとして理解しましょう。時代をまたいだ類似の制度などの共通点・相違点なども整理し、用語集などに登場する単語や教科書・史料集・図録（画像・統計資料など）・年表などにある情報も知識に加えてください。教科書に記されている史実は、当時書かれた史料や、当時つくられた様々な文化財（建築・美術工芸品など）が示す情報から学術的に立証されています。史料や文化財があるからこそ、歴史を復元できることを理解している学生が入学してくることを本学は期待しています。記録など客観的な根拠をもとに物事を語る方法論は、歴史以外の分野でも適用が可能です。この方法論を知るための学習の成果は、大学入学後・卒業後も役立つ知的資産になります。

● 出題の基本方針

世界史は、教科書に記載されている内容を中心として、高校での学習内容の理解を問うことを出題方針としています。

時代や地域は幅広く、またテーマも政治、経済、文化など様々なものを出題しています。特定の地域・時代だけでなく、幅広く学習しましょう。

また、空所補充問題だけでなく、出来事の内容について理解しているかを問う文章選択問題、建築物や文化史などについての問題も出題しました。

世界史の学習においては、語句や年号を暗記するだけでなく、出来事の背景や意義、また地理的な状況や他の事象との関連などについても意識を向け、複合的な思考力を身につけてほしいと考えています。

全方式・日程で、地域や時代が異なる2つの大問から各25問程度、出題しました。原則として時代が古い方を第1問、新しい方を第2問としています。

● 出題内容とねらい、採点講評

出題のねらいは、一つ一つの出来事が、どのようにつながって、歴史の流れ（ストーリー）をつくっているかについて理解できているかを評価する点にあります。歴史の縦のつながりだけでなく、同時代の他地域との横のつながりにも、目を向けてください。

丸暗記による知識では困難であっても、設問で問われている時代の支配勢力や地理的な位置関係に関する知識を統合すれば、正解を導くことができる問題も出題しています。

採点・点数については、試験日ごとに偏差値にもとづく得点調整が行われますので、受験日による有利不利はありません。

【A方式1日目】

第1問はイスラーム史、第2問は近現代史から出題しました。正答率は第1問・第2問ともに60%台でした。特に正答率の低かった問題は、第1問の間14でした（正答率は16.1%）。間14は、文学作品に関する問題で正解は④『旅行記』（『三大陸周遊記』）でした。筆者がイブン＝バットゥータであることは有名ですが、口述筆記による作品であることも知っておきましょう。第2問(4)で触れられているアラブ人とユダヤ人の対立は今の武力紛争にもつながっている問題です。近年の国際関係も歴史的な視点から観察してみましょう。

【A方式2日目】

第1問は北魏から唐にかけての中国史、第2問は近世ヨーロッパを中心に出題しました。正答率は第1問が約65%、第2問は45%程度でした。第2問の間1はローマ教皇とその教皇に関わった出来事に関する問題で、18%と正答率が低かったです。レオン3世はビザンツ皇帝です。問題文をよく読みましょう。

【A方式3日目】

第1問は古代オリエントと地中海世界から、第2問は東南アジア地域から広く出題しました。正答率は第1問が約70%、第2問が60%台で、全体としてよくできていました。

【B方式1日目】

第1問はヨーロッパ中世史、第2問はアメリカ近代史から出題しました。正答率は第1問が60%台、第2問は50%程度でした。第2問の間18は第二次世界大戦後の南北アメリカの政権に関する問題でしたが、16.8%とやや正答率が低かったです（正解は③）。語句の正誤だけでなく、どの時期に起こったのかも理解してください。

【B方式2日目】

第1問は中南米史、第2問は宋から金にかけての中国史から出題しました。正答率は第1問が約50%、第2問は40%程度でした。中南米史は欧米史や中国史に比べると学習量が少なくなりがちな分野かもしれませんが。特に中世以降の世界史に影響を与える出来事について出題していますので、ぜひ正解できるようになってほしいです。第2問の間25の正答率が低かったです。この問題は朱子学の内容を問う問題でした（正解は①）。文化史を学習する際は、固有名詞だけでなく、内容や他の関連する文化との違いを理解するよう心がけてください。

● 学習上のアドバイス

近年の世界的なニュースや国際情勢の問題には、世界史で学習する歴史的な要因が関係しているものが多いです。世界史を学習することは、入学試験対策だけでなく、これら現代の事情を理解するための物差しを身につける貴重な機会だと考えましょう。

例年、語句選択問題に比べて、文章選択の問題の正答率が比較的低い傾向にあります。時間に限りがある中で難しいかもしれませんが、説明できる力を身につけてほしいと願っています。

● 出題の基本方針

2024年度入試の出題方針も例年通りです。教科書を中心として基礎的な知識とその応用を問うとともに、現代社会の現状や課題について主体的に関心をもって学習を深めていることができていくかどうかを確認するために、深い知識や時事的な知識を問う問題も出題しています。

2024年度の出題分野は以下の通りです。A方式1日目は日本の国会・裁判制度と企業経営、2日目は世界三大宗教と資本主義経済・企業、3日目は日本の国家安全保障戦略と財政に関する出題です。広く現代社会に関する知識を問う出題となっています。

● 出題内容とねらい、採点講評

【A方式1日目】

第1問は、日本の国会と裁判制度に関する設問です。①～⑦は、選挙と国会に関して具体的内容を問う出題です。⑧と⑨は、裁判所および裁判官について問うものです。⑩は裁判の根底となる憲法について問う問題です。⑪～⑳は、紛争や犯罪・犯人の権利など日本の刑事裁判制度に関する出題です。

第2問は、日本における企業の定義および企業が社会に対して果たす役割に関する設問です。㉑～㉔は、企業の製品・サービスおよび会社法や株式会社の定義に関する出題です。㉕～㉗は、公害や公害に関わる訴訟、公害・環境対策に関する動向を問う設問です。㉘～㉚は、企業の法令遵守や社会的責任の考え方や、企業の利害関係者に関して問うものです。

【A方式2日目】

第1問は、世界三大宗教としてイスラーム、キリスト教、仏教の基礎知識に関する設問です。①～⑦は、イスラームの創始者やイスラームの教えを問うものです。⑧～⑭は、キリスト教の母体や宗教の規律、教えの基本的な考え方に関する出題です。⑮～㉒は、仏教の教えの四諦説や八正道、ゴータマ死後の仏教思想の分裂に関する出題です。

第2問は、資本主義経済と企業の形態や会社経営および会社法に関する設問です。㉑～㉓は、資本主義が確立するきっかけとなる産業革命および資本主義に関わる学者について問う設問です。㉔～㉚は、19世紀から20世紀にかけた資本主義の動向について問うものです。㉛～㉞は、企業の生産の三要素や企業の定義、日本における中小企業の割合および企業経営に関して問

うものです。

【A方式3日目】

第1問は、日本の平和主義と安全保障に関する設問です。①～⑤は、日本の国家安全保障に関わる体制および法整備について問うものです。⑥～⑩は、憲法と自衛隊および防衛関係費の推移に関する出題です。⑪～⑮は、非核三原則および日米安全保障の変遷に関する出題です。⑯～⑲は、日本の主権のおよぶ範囲を問うものです。㉑と㉒は、国際協調や軍需産業の拡大について問う出題です。

第2問は、政府の経済活動の財政全般に関する設問です。㉑～㉓は、財政の3つの機能である資源配分、所得の再分配、景気の安定化について問うものです。㉔～㉖は、歳入と歳出に関する出題です。㉗～㉙は、経済的な混乱に対する均衡予算の原則の考え方について問うものです。㉚～㉜は、公債発行の増加に関する諸問題について問うものです。㉝～㉟は、財政状況の悪化や高齢者の諸問題に関する日本、アメリカ、ドイツの3カ国の状況について順位を問うものです。

● 学習上のアドバイス

多くの出題は教科書に基づいた基礎的な設問であり、教科書の内容をしっかりと学習することが第一に重要です。また、教科書には多くの図表が掲載されています。教科書の本文には詳述されていないことが図表を通じて理解できるように設定されています。これをさらに深く理解するためには、副読本や資料集だけでなく、新聞やインターネットなどの報道を活用して社会の動きを捉えることが必要です。現代社会の教科書に特有な用語は、用語集を活用するとよいでしょう。

現代社会は新たな多くの課題に次々直面しています。たとえば、ロシアによるウクライナ侵攻に伴い日本の国家安全保障の考え方は変化し、防衛関係費も増加の一途を辿っています。

2025年度より「現代社会」の出題はありませんが、現代社会が抱える問題に関心を抱き、新聞やインターネットなどから情報を収集することで、主体的に考察する姿勢は常に必要です。

* 2025年度入試より「現代社会」は出題されません。

● 出題の基本方針

出題範囲は「数学Ⅰ・Ⅱ・A」で、全方式・日程で問題に偏りがないように出題しています。出題分野は数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分法と積分法、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質です。各方式・日程いずれも基本的な理解を問うことを目的としています。そのため、問題の水準は教科書の例題、演習問題、章末問題を基準にしたものを出题しています。

● 出題内容とねらい、採点講評

大学に入学後は、学部によって使う数学が異なるため、基礎的な数学的素養を幅広く問う形式になっています。そのため、全方式・日程とも、出題範囲からまんべんなく出題しています。B方式の第4問では、誘導問題のついた長めの問題を出題しています。複数の分野の知識を使う複合的な問題も含まれていますが、基本的には教科書の問題を組み合わせたものを出题しています。正答率は、方式・日程によって異なりますが、A方式が4～6割程度、B方式が4割程度、D方式が6割程度です。以下では正答率が低かった問題を解説します。

【A方式1日目】

第1問(2)のカ～ケの正答率が低くなりました。直前のウ～オの計算が誘導になっているため、三角比の相互関係の公式を用いて、 $\sin\theta$ と $\cos\theta$ で表すことで値を求めることができます。

【A方式2日目】

第2問(2)のii)では、さいころを4個投げて出た目で決まる2点を通る直線が原点を通る確率を求めます。直前のi)のウ～カの計算が誘導になっていましたが、ii)のキ～サの正答率が低くなりました。まず、直線 $y=x$ 上の点で条件に当てはまるのは、第一象限内の6点と原点を中心とした点対称の座標になります。次に、第一象限内の $y=x$ より上の点として、 $y=\frac{3}{2}x$ 、 $y=2x$ 、 $y=3x$ それぞれの直線上の点と原点を中心とした点対称の点に着目します。また、第一象限内の $y=x$ より下も同様に条件に当てはまる座標の組が存在します。これらの個数から確率が求められます。

【A方式3日目】

第3問(3)では、三角関数の方程式の解を求めます。2倍角の公式と三角関数の合成を利用して整理すると、三角関数の周期から範囲内で該当する解が求められます。

【B方式1日目】

第1問(1)では、最小となる三角形の線分の長さを求めます。自分で図を描き、図形のイメージを認識できるかがポイントです。辺 $BC=a$ 、辺 $AB=3-a$ とし、余弦定理を用いて AM^2 を表すと、 AM^2 が最小となる a の値が求められ解答できます。

【B方式2日目】

第1問(3)では、部分集合の個数を求めるケコの正答率が低くなりましたが、基礎的な知識を問う問題です。部分集合の個数は、空集合および全体集合自身も部分集合であることを理解し、 2^5 を計算すると個数が求められます。

【D方式】

第2問(2)のii)では、与えられた条件において、直方体から切り取る三角錐の底面の面積の最大および最小を求めます。自分で図を描き、図形のイメージを認識できるかがポイントです。条件を満たす x 、 y 、 z の組み合わせは2通りであるため、余弦定理と三角関数の面積の公式を用いて、それぞれの場合における面積を求めることで解答できます。

最後に全体的な採点の講評として、2次関数・3次関数・指数関数・対数関数・三角関数を用いた方程式や関数の最大・最小の問題については正答率が比較的高いです。一方で、図形の問題は基本的な問題でも正答率が低い傾向がありました。

● 学習上のアドバイス

教科書を用いた学習が基本です。基本的な問題を確実に解けるようにし、図やグラフをきちんと作図することも重要です。これまで本学で出題された応用力を問う難しい問題も、図が描けると難易度が下がる問題が多いと思います。また、特定の分野だけでなく、幅広く学習することも必要です。計算量が多い問題でも制限時間内に速く正確に解けるように、日々の学習では基本問題を繰り返し反復することが望まれます。

小論文

出題のねらいと講評

● 出題内容

ミルトン・メイヤロフ著 田村真・向野宣之訳『ケアの本質—生きることの意味』（ゆみる出版、1987年）より抜粋し、一部を変更して出題しました。

著者は、ケアされる対象者が自主的に選んだ方向に成長できるよう、主に精神面に関する援助の指針を述べている。具体的には、病的な依存関係や過保護はケアの枠外であり、ケアされる対象者の成長を援助し、実際にその成長が認められなければケアしていることにはならないと主張しています。また、ケアとは伝染するものであり、友情が深い場合、ケアの相互関係がより活性化すると指摘しています。以上が課題文の大意です。

問1は300字以内の本文要約、問2は500字以内の意見論述でケアとは何かについて思うところを、身近な例を挙げながら述べることを求めました。

● 採点方法

各々の答案について2名が採点にあたり、平均点を得点としています。課題文の内容を的確に把握しているか、大意に即した論述を行っているか、文章の表現や構成が適切であるか、という観点から、本学で学ぶにあたって十分な学力を備えているか否かを評価しました。

● 講評

問1の要約は、多くの受験生が課題文の大意を把握していました。ただし、課題文の一部にしか言及していない答案も見られました。より自然な文章にするため、相応しい語彙や表現に書き換えるといった工夫があってもよいと思われますが、そういった答案はあまり見られませんでした。

問2については、身近な例の記述ということで、よく書けていました。多くの受験生は家庭、部活動、試験勉強のいずれかの状況下での家族や友人との間で見られるケアの相互関係について論じていました。

小論文

出題のねらいと講評

● 出題内容

スティーブン・スローマンとフィリップ・ファーンバック著 土方奈美訳『知ってるつもり 無知の科学』の一説を出題しました。この文章に基づく設問を2問設定し、問1は本文の要約を300字以内で記述、問2は筆者の意見に対して思ったことを500字以内で記述することを求めました。

● 採点方法

60点を上限とし、問1を20点、問2を40点の配分としました。

問1は、問題文の内容を正しく読み取り、要約しているかという観点から採点しました。

問2は、筆者の意見を正しく読み取り、それに対して自分の意見を述べているか、また具体例を入れて自分の主張をサポートしているかどうか注目して採点しました。

● 講評

問1は、ほとんどの受験生が正しく要約を行っていました。

問2は、自らの考えを論理的に述べた解答も存在しましたが、多くの解答はトピックセンテンスを設けるなどの論文の書き方に沿っていませんでした。また、事前に用意したと思われる話題に無理やり結びつけ、論理展開が不自然な解答も見られました。

小論文

出題のねらいと講評

● 出題内容

問題文は、2023年3月23日『朝日新聞』（朝刊）の「野球の祭典 熱狂の中に見えた未来」という社説からの出題でした。内容は、野球の祭典であるワールド・ベースボール・クラシックを題材にしたもので、プレーの質の高さ、「野球途上国」の躍進、ベースボールというスポーツの国際化、日本代表チームの活躍などが紹介されました。一方、開催にあたっての公平性の問題も指摘されており、小論文問題の出題としては妥当な内容の記事であると考えます。問1は本文のポイントを5点挙げてその要約を求めるもの、問2は文章中の内容説明を問うもの、問3は「スポーツと公平性」をテーマに自身の意見を求めるものでした。

● 採点方法

採点者は4名で、各2名がペアとなり同一問題をそれぞれが採点し、その平均値を四捨五入して総点としています。評価方法について、問1～問3をあわせて丁寧に解答しているかを10点、問1は字数（1～5点）、5つのポイントそれぞれが的確にまとめられているか（1ポイント5点の計25点）で計30点、問2は字数（1～5点）と的確に解答できているか（0～10点）の計15点、そして問3は字数（1～5点）と内容（文章力も含む）を20点の計25点としました（合計80点）。また、2つのペアの平均値をあわせることで、採点の平等性を図りました。その結果、全体の平均点は満点80点中約60点となりました。

● 講評

全受験生において、文字数的に不十分な、また内容的に不適切な解答は見られませんでした。全体の「丁寧に書けているか」においても、10点中約7点（6点：普通、8点：丁寧に書かれている）と高評価を得ていました。

問1の要約問題では、概ね5つのポイント中4つのポイントの正解が見られました。

問2は「文章中の内容説明を問う」という今までにない出題でしたが、スポーツに関する一般常識を問うねらいからも、よい問題設定であったと考えます。

問3は「公平性」というキーワードをテーマに解答を求めました。各自の具体的なスポーツ経験を踏まえて意見が述べられており、採点者としては評価しやすかったのではないかと考えます。

小論文

出題のねらいと講評

● 出題内容

櫻井芳雄『まちがえる脳』（岩波新書、2023年）の一部から出題しました。

この文章に基づく設問を2問設定し、問1は本文の要約を100字以内で記述、問2は本文の内容について、自身の考えを800字以内で書くことを求めました。

● 採点方法

50点満点で採点しました。1名の受験生の答案を2名の教員で採点しています。教員は各コースから1人ずつ選出し、担当しました。受験生が書類審査において、どの専門コースの課題を選択したのかは伏せて採点しています。要約、論理構成、主張と根拠の提示、文章の書き方、内容（複数視点で捉えられているか、現状を変える意志があるか）という観点を各10点で採点しました。

● 講評

全体の最高得点が45点、最低点が21点でした。

高得点の解答は、主張が明確であること、主張への道筋が論理的であること、反対意見など複数の視点で対象を捉えているという点が押さえられていました。また、自らの問題ではなく、社会の問題に視野を広げて論を展開しているという傾向がありました。